

子どもたちに夢を

子どもたちの将来の夢と言えば、今も昔も変わらず人気の「スポーツ選手」。市では、スポーツ選手の中でもトップアスリートたちと触れ合う機会を作り、子どもたちに夢を与えている。



アスリートがつなぐ希望

東京オリンピック・パラリンピックまであと2年。市では、スポーツを通して子どもたちに夢を与えようと、スポーツのトップアスリートを講師に招き、選手と直接触れ合う「スポーツ交流大会」を開催している。先に紹介した市まちづくり大使の眞田卓選手も昨年講師を務めた一人だ。今年の3月には、北京五輪で金メダルを獲得し、今は市内で暮らす元ソフトボール日本代表の投手・坂井寛子さんが講師を務めた。

講演会での坂井さんの言葉の一つは、ソフトボールとともに人生を歩み、経験に裏付けられたものばかり。子どもたちは、真剣な表情でその話に耳を傾ける。体験では、世界を相手に戦ってきた坂井さんのボールの速さに驚きの表情を見せる子や、オリンピックの金メダルを前に目を輝かせる子の姿も。憧れの選手を目の前にして、子どもたちは大きな刺激を受け、新たな希望を胸に歩み始めている。



頂点に立った人のみぞ知る！ オリンピック金メダルまでの軌跡



元ソフトボール日本代表
坂井 寛子 さん
中学からソフトボールを始め、2004年のアテネ五輪では銅、2008年の北京五輪では金メダルに貢献。引退後に市内へ移住。



——北京五輪で金メダルを獲得したときのお気持ちは？

ソフトボールは北京五輪を最後に、五輪競技から外れることになっていました。アテネ五輪後に一度引退したのですが、「ソフトボールに励む子どもたちにもう一度夢を与えたい」と、金メダル獲得を目指して現役復帰。実際に金メダルを獲得した瞬間は、嬉しさ以上に「子どもたちに夢と希望を届けることができよかった」という安堵の気持ちが大きかったです。

——今でも忘れられない五輪の瞬間は？

念願だったアテネ五輪の最初のマウンドです。「やっとこの場所に立てた」という嬉しさと同時に「勝たなくては」というプレッシャーで今までに

感じたことのない震えを感じました。オリンピックでは、自分が自分ではないような感覚を味わいました。

——現役時代に挫折を味わったことはありますか？

シドニー五輪の最終選考で落選したときは、練習するのも嫌になりました。そんな時期に頭角を現したのが上野投手。速さでは敵わないので、速さ以外の自分の武器を身に着けようと新しい球種を研究。それまでは練習に対し受け身でしたが、自分から挑戦した「シュート」はあっという間にマスターできました。これをきっかけに他の球種にも自信が付き、アテネ五輪メンバーに選出されました。

——ソフトボールを続けてきて、今どのような思いですか？

引退するまで、ソフトボールがずっと生活の軸にあり、ソフトボールに育ててもらったと言っても過言ではないと思います。チームスポーツは仲間の協力がなければ何もできないので、仲間との付き合い方や礼儀など多くを学びました。多くの人に支えられ、ここまで来られたと思います。

——子どもたちとの交流で感じることは？

子どもたちは目を輝かせながらソフトボールをするので、自分が忘れかけていた素直な気持ちを思い出させてくれます。子どもたちのソフトボールへの情熱が冷めないよう、今後もできる限り力になっていきたいと思っています。

メダリストがやってくる！フェンシング 太田雄貴氏 講演会

北京、ロンドンオリンピックの2度にわたり銀メダルを獲得した太田雄貴氏を講師に迎え、講演会とデモンストレーションを行います。

- ▶とき：12月15日(土) 午後1時開演
- ▶ところ：にしなすの運動公園体育館
- ▶対象：市民 ※申し込み不要。
- ▶問い合わせ 函スポーツ振興課 ☎0287(37)5439

太田 雄貴 氏
小学3年生からフェンシングを始め、北京五輪では個人銀メダル、ロンドン五輪では団体銀メダルを獲得。2016年に現役を引退した。



参加費
無料